

研究の窓

知りたい。伝えたい。 シンプルな思いが、 地域研究の原動力。



交流文化学部 交流文化学科 講師 山本 理佳

【学歴】

1998年3月 お茶の水女子大学文教育学部教育学科 卒業
2001年3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科発達社会科学専攻博士前期課程修了
2007年3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達化学専攻博士後期課程単位取得満期退学
博士(社会科学、お茶の水女子大学)

【職歴】

2006年4月～2013年3月 青山学院女子短期大学教養学部非常勤講師
2009年4月 東北福祉大学総合福祉学部非常勤講師
2011年4月～2013年3月 明治学院大学国際学部非常勤講師
2013年4月 愛知淑徳大学交流文化学部講師

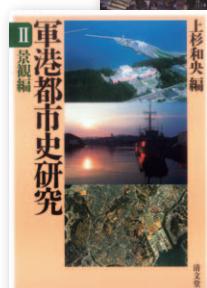
「近代化遺産」という言葉、聞いたことがありますか？文化遺産の一カテゴリーで、主に幕末以降、西洋的技術によって建造された建築物、産業施設、土木施設などを指します。東京駅など有名で人気の高い西洋建築のみならず、鉄道や工場施設、さらには高速道路、ダムなどのコンクリート製構造物など様々なものが含まれます。

文化遺産というと、そこには搖るぎのない科学的・普遍的な価値がある、と考える人が多いでしょう。けれど実際は社会や時代によつて大きく異なつていて、この「近代化遺産」も、ここ二十数年かけてようやく文化遺産として認識・評価されるようになりました。それ以前、とくに使用を停止した産業・土木の大規模建造物は、無用の長物、あるいは地域開発の邪魔者でしかなかつたのです。私はこれらの邪魔者を「近代化遺産」という価値をもつ文化遺産へと構築していく人々の活動がなぜ、そしてどのように行われてきたのかを研究してきました。

こういったモノそのものよりも、モノに付随する意味・価値の多様なあり方やその構築の

過程に目を向けることは、「イメージ」が現実の政治や経済などにも大きな影響を与える今日、とても重要なものとなっています。たとえば皆さんにとって身近な観光現象は、地域社会や旅行業界、観光客などが地域や場所の意味や価値、すなわち「イメージ」をつくり出したり、流通させたり、あるいは求めたりすることで成立しています。私が専門とする地理学や社会学では、こうしたモノの意味や価値をつくり出す文化的営為（実践）に着目する「（新しい）文化地理学」や「カルチュラル・スタディーズ（文化研究）」が、今日的な現実をどう考える必要性から盛んに行われてきました。この「イメージ」をつくり出す様々な文化実践は非常に変転しやすく、その一瞬をとらえていくことは難しくもあります。ですが、現代の様々なメディアの情報を着実にとらえ、日々に取り入れていく学生の皆さんこそ、自分のセンスでとらえていくことが可能な分野でもあります。今後はそうした皆さんの今を切り取る斬新な視点・見方に刺激をもらいつつ、より新たな研究を進めていきたいと考えています。

学生時代、日本各地をひとり旅し、その土地の人たちからさまざまな話を聞くことが好きだったという山本先生。地理学のゼミに所属し、地域研究に熱中していました。近代以降に造られた建造物に関して、まだ知られていない情報を人から聞き出し、多くの人に伝えています。現在は、「ご自身の研究実績を活かしながら、交流文化学部で観光分野の授業を担当し、フィールドワークの重要性を学生たちに伝えています。そしてゼミでは、地域社会が主体となって観光を生み出す「ユーツーリズム」と出会い、自分の世界を大きく広げてほしい」。山本先生は優しい笑みを浮かべ、学生たちとの学び合いに期待を寄せていました。



山本先生の主要著作／論文

【主要著書リスト】

- ・『近代化遺産』にみる国家と地域の関係性』古今書院, 2013.
- ・『近代産業遺産と文化遺産制度—北九州市の製鉄施設を事例として』p135-160 青木隆浩・国立歴史民俗博物館編『地域開発と文化資源－歴博フォーラム民俗展示の新構築』岩田書院, 2013.
- ・『地形図と空中写真からみる佐世保の景観の変遷』p85-122, 「戦後佐世保における『水軍』の景観—佐世保川周辺の変容—』p327-368 上杉和央編『軍港都市史研究 景観編』清文堂, 2012.
- ・『起業祭』p170～178, 「東田第一高炉』p232-237 北九州地域史研究会編『北九州の近代化遺産』弦書房, 2006.